

演習問題

※症例5は、多重がん判定も行ってください。

採用したルール(肺 等)、判定決定したルール(M●)、
判定結果(単発 or 多重)を回答欄に記載してください。

※登録対象になる症例に対して、各項目の登録内容を
回答用紙に記載してください。

<症例 1> 68 歳 男性

【現病歴】

2023 年 12 月 22 日 A 病院で、胃潰瘍のフォローアップで行われた上部消化管内視鏡検査時、門歯より 30cm あたりにびらん性病変が認められ、生検施行。生検の結果「Squamous cell carcinoma」の診断。
精査・加療目的に自施設紹介受診。

【経過】

2024 年 1 月 9 日 当院消化器内科受診。
2024 年 1 月 16 日 上部消化管内視鏡施行。
門歯より 30cm に 0-IIa 型(表面隆起型)の病変が認められる。30mm 径の表在癌と診断。
EUS(超音波内視鏡検査)にて、明らかな転移リンパ節なし。
占拠部位 Mt、腫瘍径 30mm、T1a(LPM)。
隆起部分より生検施行。
2024 年 1 月 23 日 生検の結果「Squamous cell carcinoma」。
食道癌の診断。内視鏡的手術(ESD)適用であることを、本人・家族に説明。
2024 年 2 月 14 日 治療目的に入院。
2024 年 2 月 15 日 ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)施行。
2024 年 2 月 17 日 経過良好で退院。

≪病理報告≫ Squamous cell carcinoma

腫瘍は 30×20mm で、粘膜上皮内にとどまっている。

Mt, 0-IIa, pT1a-EP, HM0, VM0, pR0

症例番号

110 重複番号		710 鏡視下治療		510 UICC cT	
140 性別		711 鏡視下治療 施行日		520 UICC cN	
300 原発部位 《局在コード》		715 鏡視下治療 (開始前・他施設)		530 UICC cM	
309 原発部位 《テキスト》		716 鏡視下治療 (開始後・他施設)		540 UICC c付加因子	
310 側性		720 内視鏡的治療		500 UICC cステージ	
320 病理診断 《形態コード》		721 内視鏡的治療 施行日			
329 病理診断 《テキスト》		725 内視鏡的治療 (開始前・他施設)		610 UICC pT	
330 診断根拠		726 内視鏡的治療 (開始後・他施設)		620 UICC pN	
350 当該腫瘍初診日		730 観血的治療範囲		630 UICC pM	
360 他施設診断日		740 放射線療法		640 UICC p付加因子	
370 自施設診断日		741 放射線療法 施行日		600 UICC pステージ	
380 診断日		745 放射線療法 (開始前・他施設)			
400 診断施設		746 放射線療法 (開始後・他施設)		550 規約肝cステージ	
410 治療施設		750 化学療法			
420 症例区分		751 化学療法 施行日		580 c進展度	
450 来院経路		755 化学療法 (開始前・他施設)		680 p進展度	
460 発見経緯		756 化学療法 (開始後・他施設)			
470 病名告知の有無		760 内分泌療法			
700 外科的治療		761 内分泌療法 施行日			
701 外科的治療 施行日		765 内分泌療法 (開始前・他施設)			
705 外科的治療 (開始前・他施設)		766 内分泌療法 (開始後・他施設)			
706 外科的治療 (開始後・他施設)		770 その他の治療			
		775 その他の治療 (開始前・他施設)			
		776 その他の治療 (開始後・他施設)			
		780 経過観察選択			
		790 緩和的治療			

<症例 2> 60歳 女性

【現病歴】

1ヵ月ほど前から食後のむかつき感が出現し、徐々に増悪傾向を示したため、2024年2月7日当院消化器内科受診。

【経過】

2024年2月7日 当院消化器外科を初診。
2024年2月13日 上部消化管内視鏡施行。
幽門前庭部に35mm径、Type2の病変。EUSにて筋層への浸潤を認め、生検施行。
2024年2月19日 腹部超音波検査で胃周囲リンパ節に転移と考える腫大を複数認める。他臓器への転移所見なし。
2024年2月26日 生検結果「Adenocarcinoma」。
胃癌の診断で、手術を行い、術後化学療法を行う旨、本人・家族に説明。
2024年3月11日 手術目的で入院。
2024年3月12日 腹腔鏡下幽門側胃切除術施行(D2郭清)。
2024年3月15日 術後化学療法開始。
2024年3月21日 経過良好にて退院。

《手術 病理報告》 Moderately differentiated tubular adenocarcinoma

胃幽門前庭部大彎に比較的深い潰瘍性病変を認めます。周堤は比較的明瞭で、潰瘍性病変に一致して、一部に高分化な部分を伴う中分化管状腺癌が増殖しており、最深部は漿膜下層に浸潤しています。

切除断端はPM0、DM0ですが、漿膜下のリンパ管、静脈への侵襲を認めます(Ly1b、V1b)

郭清リンパ節 7/40 #1 0/3, #3b 2/4, #4d 2/6, #4sb 0/2, #5 1/3, #6 2/4, #7 0/1, #8a 0/3, #9 0/3, #11p 0/3, #12a 0/3, #14v 2/5

症例番号

110 重複番号		710 鏡視下治療		510 UICC cT	
140 性別		711 鏡視下治療 施行日		520 UICC cN	
300 原発部位 《局在コード》		715 鏡視下治療 (開始前・他施設)		530 UICC cM	
309 原発部位 《テキスト》		716 鏡視下治療 (開始後・他施設)		540 UICC c付加因子	
310 側性		720 内視鏡的治療		500 UICC cステージ	
320 病理診断 《形態コード》		721 内視鏡的治療 施行日			
329 病理診断 《テキスト》		725 内視鏡的治療 (開始前・他施設)		610 UICC pT	
330 診断根拠		726 内視鏡的治療 (開始後・他施設)		620 UICC pN	
350 当該腫瘍初診日		730 観血的治療範囲		630 UICC pM	
360 他施設診断日		740 放射線療法		640 UICC p付加因子	
370 自施設診断日		741 放射線療法 施行日		600 UICC pステージ	
380 診断日		745 放射線療法 (開始前・他施設)			
400 診断施設		746 放射線療法 (開始後・他施設)		550 規約肝cステージ	
410 治療施設		750 化学療法			
420 症例区分		751 化学療法 施行日		580 c進展度	
450 来院経路		755 化学療法 (開始前・他施設)		680 p進展度	
460 発見経緯		756 化学療法 (開始後・他施設)			
470 病名告知の有無		760 内分泌療法			
700 外科的治療		761 内分泌療法 施行日			
701 外科的治療 施行日		765 内分泌療法 (開始前・他施設)			
705 外科的治療 (開始前・他施設)		766 内分泌療法 (開始後・他施設)			
706 外科的治療 (開始後・他施設)		770 その他の治療			
		775 その他の治療 (開始前・他施設)			
		776 その他の治療 (開始後・他施設)			
		780 経過観察選択			
		790 緩和的治療			

<症例 3> 72 歳 女性

【現病歴】

2023 年 12 月 7 日 B クリニックでの人間ドック受診時に便潜血陽性となり、精査のため C 病院受診。
上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡において異常所見なく、小腸疾患を疑われ、精査目的に
自施設紹介受診。

【経 過】

2024 年 1 月 11 日 当院消化器外科受診。
2024 年 1 月 19 日 ダブルバルーン小腸内視鏡検査施行。
Treitz 靱帯から 10cm 付近から肛門側へ隆起性病変を認め、生検施行。
2024 年 1 月 29 日 生検結果が「Adenocarcinoma」であったことを本人に説明。
2024 年 2 月 1 日 MRI 検査施行:腫瘍は筋層までの進展と考える。腸間膜内のリンパ節に転移と
考える腫大を認めた。
諸検査より「空腸癌」と診断。十二指腸空腸切除術が計画され、本人と家族に
説明。
2024 年 2 月 13 日 治療目的に入院。
2024 年 2 月 14 日 十二指腸空腸切除術施行。
2024 年 2 月 25 日 経過良好で退院。

《手術 病理報告》 Moderately differentiated adenocarcinoma

腫瘍は 5×3×2cm 径の中分化腺癌で、一部に腸間膜内への進展が認められた。切除断端陰性。
上腸間膜リンパ節に転移を認める(2/10)。

症例番号

110 重複番号		710 鏡視下治療		510 UICC cT	
140 性別		711 鏡視下治療 施行日		520 UICC cN	
300 原発部位 《局在コード》		715 鏡視下治療 (開始前・他施設)		530 UICC cM	
309 原発部位 《テキスト》		716 鏡視下治療 (開始後・他施設)		540 UICC c付加因子	
310 側性		720 内視鏡的治療		500 UICC cステージ	
320 病理診断 《形態コード》		721 内視鏡的治療 施行日			
329 病理診断 《テキスト》		725 内視鏡的治療 (開始前・他施設)		610 UICC pT	
330 診断根拠		726 内視鏡的治療 (開始後・他施設)		620 UICC pN	
350 当該腫瘍初診日		730 観血的治療範囲		630 UICC pM	
360 他施設診断日		740 放射線療法		640 UICC p付加因子	
370 自施設診断日		741 放射線療法 施行日		600 UICC pステージ	
380 診断日		745 放射線療法 (開始前・他施設)			
400 診断施設		746 放射線療法 (開始後・他施設)		550 規約肝cステージ	
410 治療施設		750 化学療法			
420 症例区分		751 化学療法 施行日		580 c進展度	
450 来院経路		755 化学療法 (開始前・他施設)		680 p進展度	
460 発見経緯		756 化学療法 (開始後・他施設)			
470 病名告知の有無		760 内分泌療法			
700 外科的治療		761 内分泌療法 施行日			
701 外科的治療 施行日		765 内分泌療法 (開始前・他施設)			
705 外科的治療 (開始前・他施設)		766 内分泌療法 (開始後・他施設)			
706 外科的治療 (開始後・他施設)		770 その他の治療			
		775 その他の治療 (開始前・他施設)			
		776 その他の治療 (開始後・他施設)			
		780 経過観察選択			
		790 緩和的治療			

<症例 4> 50 歳 男性

【現病歴】

2024 年 2 月 19 日前日から右下腹部痛があり、近医 A クリニック受診。理学所見から急性虫垂炎と診断され、手術目的に自施設紹介受診。

【経過】

2024 年 2 月 19 日 当院紹介受診。

腹部 CT 検査で、10cm ほどに腫大した虫垂を認め、急性虫垂炎と診断。

このまま入院し、明日手術をする旨、本人に説明。

2024 年 2 月 20 日 虫垂切除術施行。

2024 年 2 月 24 日 経過良好にて退院。

2024 年 3 月 1 日 退院後外来受診。

術後病理報告で「虫垂癌」と診断。追加切除とリンパ節郭清が必要な旨、本人に説明。

2024 年 3 月 7 日 手術目的に入院。

2024 年 3 月 8 日 追加切除とリンパ節郭清施行。

2024 年 3 月 15 日 経過良好にて退院。

《病理報告》 Well differentiated adenocarcinoma

虫垂は 12×6cm と腫大し、一部に 2×2.5cm の腫瘍を認めた。腫瘍は、不整形腺管の増殖像がみられ、一部は、固有筋層をこえ、虫垂間膜への進展が見られた。

《追加切除 病理報告》

追加切除で得られた検体に、残存腫瘍は認められなかった。

郭清リンパ節 1/10(#201 1/5、#202 0/3、#203 0/5)

症例番号

110 重複番号		710 鏡視下治療		510 UICC cT	
140 性別		711 鏡視下治療 施行日		520 UICC cN	
300 原発部位 《局在コード》		715 鏡視下治療 (開始前・他施設)		530 UICC cM	
309 原発部位 《テキスト》		716 鏡視下治療 (開始後・他施設)		540 UICC c付加因子	
310 側性		720 内視鏡的治療		500 UICC cステージ	
320 病理診断 《形態コード》		721 内視鏡的治療 施行日			
329 病理診断 《テキスト》		725 内視鏡的治療 (開始前・他施設)		610 UICC pT	
330 診断根拠		726 内視鏡的治療 (開始後・他施設)		620 UICC pN	
350 当該腫瘍初診日		730 観血的治療範囲		630 UICC pM	
360 他施設診断日		740 放射線療法		640 UICC p付加因子	
370 自施設診断日		741 放射線療法 施行日		600 UICC pステージ	
380 診断日		745 放射線療法 (開始前・他施設)			
400 診断施設		746 放射線療法 (開始後・他施設)		550 規約肝cステージ	
410 治療施設		750 化学療法			
420 症例区分		751 化学療法 施行日		580 c進展度	
450 来院経路		755 化学療法 (開始前・他施設)		680 p進展度	
460 発見経緯		756 化学療法 (開始後・他施設)			
470 病名告知の有無		760 内分泌療法			
700 外科的治療		761 内分泌療法 施行日			
701 外科的治療 施行日		765 内分泌療法 (開始前・他施設)			
705 外科的治療 (開始前・他施設)		766 内分泌療法 (開始後・他施設)			
706 外科的治療 (開始後・他施設)		770 その他の治療			
		775 その他の治療 (開始前・他施設)			
		776 その他の治療 (開始後・他施設)			
		780 経過観察選択			
		790 緩和的治療			

<症例 5> 65 歳 男性

【現病歴】

2022 年 2 月に受けたがん検診で便潜血陽性となり、近医受診。大腸癌疑いで当院消化器内科紹介受診。

【経過】

- 2022 年 3 月 30 日 消化器内科初診。
- 2022 年 4 月 6 日 下部消化管内視鏡施行。横行結腸に 10mm 径のびらん性病変を認め、生検施行。
- 2022 年 4 月 14 日 生検結果「Adenocarcinoma」。
- 2022 年 4 月 24 日 CT、MRI 検査施行。リンパ節転移なし、遠隔転移所見なし。
横行結腸の M 癌と診断。内視鏡的切除術を行う旨、本人・家族に説明。
- 2022 年 5 月 10 日 治療目的に入院。
- 2022 年 5 月 11 日 ESD 施行。
- 2022 年 5 月 13 日 経過良好にて退院。今後は外来で経過観察となった。
- 2024 年 1 月 12 日 定期フォローアップ内視鏡で、上行結腸にびらん性病変を認め、生検施行。
- 2024 年 1 月 18 日 生検結果「Adenocarcinoma」。
- 2024 年 1 月 31 日 CT、MRI 検査施行。腫瘍は一部に筋層への進展が認められた。腸管傍リンパ節に
転移と考える腫大を認めた。遠隔転移所見なし。
上行結腸癌の診断で、手術と術後化学療法を行う旨、本人・家族に説明。
- 2024 年 2 月 14 日 治療目的に入院。
- 2024 年 2 月 15 日 右半結腸切除術、リンパ節郭清施行。
- 2024 年 2 月 22 日 術後化学療法開始。
- 2024 年 2 月 29 日 経過良好にて退院。化学療法は外来で継続。

《2022 年 5 月 病理報告》 Well differentiated tubular adenocarcinoma

腫瘍は粘膜内にとどまり、明瞭な管状構造が主体の高分化な腺癌が増殖している。

粘液産生はほとんどみられない。

M, tub1, pTis, HM0, VM0, ERO

《2024 年 2 月 病理報告》 Moderately differentiated tubular adenocarcinoma

腫瘍は 5×6×2cm 径、管状構造が主体の中分化な腺癌が増殖している。筋層への浸潤を認めるが、漿膜を超えた進展はない。

n: 3/33 #211 2/5, #212 1/5, #221 0/4, #222 0/4, #213 0/4, #223 0/4, #201 0/4, #202 0/3

MP, tub2, pT2, INFb, Ly1a, V1a, PM0, DM0, R0

症例番号

採用ルール	多重がん判定	
		760 内分泌療法
		761 内分泌療法 施行日
【699】腫瘍情報テキストへのコメント		765 内分泌療法 (開始前・他施設)
		766 内分泌療法 (開始後・他施設)
		770 その他の治療
110 重複番号	700 外科的治療	775 その他の治療 (開始前・他施設)
140 性別	701 外科的治療 施行日	776 その他の治療 (開始後・他施設)
300 原発部位 《局在コード》	705 外科的治療 (開始前・他施設)	780 経過観察選択
309 原発部位 《テキスト》	706 外科的治療 (開始後・他施設)	790 緩和的治療
	710 鏡視下治療	
310 側性	711 鏡視下治療 施行日	510 UICC cT
320 病理診断 《形態コード》	715 鏡視下治療 (開始前・他施設)	520 UICC cN
329 病理診断 《テキスト》	716 鏡視下治療 (開始後・他施設)	530 UICC cM
	720 内視鏡的治療	540 UICC c 付加因子
	721 内視鏡的治療 施行日	500 UICC c ステージ
330 診断根拠	725 内視鏡的治療 (開始前・他施設)	
350 当該腫瘍初診日	726 内視鏡的治療 (開始後・他施設)	550 規約肝 c ステージ
360 他施設診断日	730 観血的治療範囲	
370 自施設診断日	740 放射線療法	610 UICC pT
380 診断日	741 放射線療法 施行日	620 UICC pN
400 診断施設	745 放射線療法 (開始前・他施設)	630 UICC pM
410 治療施設	746 放射線療法 (開始後・他施設)	640 UICC p 付加因子
420 症例区分	750 化学療法	600 UICC p ステージ
450 来院経路	751 化学療法 施行日	
460 発見経緯	755 化学療法 (開始前・他施設)	580 c 進展度
470 病名告知の有無	756 化学療法 (開始後・他施設)	680 p 進展度

症例番号

採用ルール	多重がん判定	
		760 内分泌療法
		761 内分泌療法 施行日
【699】腫瘍情報テキストへのコメント		765 内分泌療法 (開始前・他施設)
		766 内分泌療法 (開始後・他施設)
		770 その他の治療
110 重複番号	700 外科的治療	775 その他の治療 (開始前・他施設)
140 性別	701 外科的治療 施行日	776 その他の治療 (開始後・他施設)
300 原発部位 《局在コード》	705 外科的治療 (開始前・他施設)	780 経過観察選択
309 原発部位 《テキスト》	706 外科的治療 (開始後・他施設)	790 緩和的治療
	710 鏡視下治療	
310 側性	711 鏡視下治療 施行日	510 UICC cT
320 病理診断 《形態コード》	715 鏡視下治療 (開始前・他施設)	520 UICC cN
329 病理診断 《テキスト》	716 鏡視下治療 (開始後・他施設)	530 UICC cM
	720 内視鏡的治療	540 UICC c 付加因子
	721 内視鏡的治療 施行日	500 UICC c ステージ
330 診断根拠	725 内視鏡的治療 (開始前・他施設)	
350 当該腫瘍初診日	726 内視鏡的治療 (開始後・他施設)	550 規約肝 c ステージ
360 他施設診断日	730 観血的治療範囲	
370 自施設診断日	740 放射線療法	610 UICC pT
380 診断日	741 放射線療法 施行日	620 UICC pN
400 診断施設	745 放射線療法 (開始前・他施設)	630 UICC pM
410 治療施設	746 放射線療法 (開始後・他施設)	640 UICC p 付加因子
420 症例区分	750 化学療法	600 UICC p ステージ
450 来院経路	751 化学療法 施行日	
460 発見経緯	755 化学療法 (開始前・他施設)	580 c 進展度
470 病名告知の有無	756 化学療法 (開始後・他施設)	680 p 進展度

<症例 6> 68 歳 男性

【現病歴】

2024 年 2 月 7 日血便を主訴に当院外科受診。

【経過】

2024 年 2 月 7 日 当院初診。

2024 年 2 月 13 日 下部消化管内視鏡検査施行。肛門歯状線上に 20×15mm の腫瘤を認め、生検施行。

超音波検査で内肛門括約筋への浸潤が認められた。

2024 年 2 月 16 日 MRI にて腫瘤は 20mm 径。直腸周囲リンパ節に腫大したリンパ節を認めた。

2024 年 2 月 21 日 生検の病理報告は「Squamous cell carcinoma」。

検査結果から肛門管癌、直腸周囲リンパ節転移の診断。

直腸切断術、人工肛門造設術施行し、術後化学療法を行う旨、本人と家族に説明。

2024 年 3 月 7 日 治療目的に入院。

2024 年 3 月 8 日 直腸切断術、人工肛門造設術施行。

2024 年 3 月 14 日 化学療法開始。

2024 年 3 月 29 日 経過良好にて退院。

《病理報告》 Well differentiated Squamous cell carcinoma

腫瘍は 22mm×17mm。腫瘍の一部は、内肛門括約筋まで浸潤が見られる。断端陰性。

郭清リンパ節 3/10（直腸周囲リンパ節 2/5、右鼠径リンパ節 1/5）。

症例番号

110 重複番号		710 鏡視下治療		510 UICC cT	
140 性別		711 鏡視下治療 施行日		520 UICC cN	
300 原発部位 《局在コード》		715 鏡視下治療 (開始前・他施設)		530 UICC cM	
309 原発部位 《テキスト》		716 鏡視下治療 (開始後・他施設)		540 UICC c付加因子	
310 側性		720 内視鏡的治療		500 UICC cステージ	
320 病理診断 《形態コード》		721 内視鏡的治療 施行日			
329 病理診断 《テキスト》		725 内視鏡的治療 (開始前・他施設)		610 UICC pT	
330 診断根拠		726 内視鏡的治療 (開始後・他施設)		620 UICC pN	
350 当該腫瘍初診日		730 観血的治療範囲		630 UICC pM	
360 他施設診断日		740 放射線療法		640 UICC p付加因子	
370 自施設診断日		741 放射線療法 施行日		600 UICC pステージ	
380 診断日		745 放射線療法 (開始前・他施設)			
400 診断施設		746 放射線療法 (開始後・他施設)		550 規約肝cステージ	
410 治療施設		750 化学療法			
420 症例区分		751 化学療法 施行日		580 c進展度	
450 来院経路		755 化学療法 (開始前・他施設)		680 p進展度	
460 発見経緯		756 化学療法 (開始後・他施設)			
470 病名告知の有無		760 内分泌療法			
700 外科的治療		761 内分泌療法 施行日			
701 外科的治療 施行日		765 内分泌療法 (開始前・他施設)			
705 外科的治療 (開始前・他施設)		766 内分泌療法 (開始後・他施設)			
706 外科的治療 (開始後・他施設)		770 その他の治療			
		775 その他の治療 (開始前・他施設)			
		776 その他の治療 (開始後・他施設)			
		780 経過観察選択			
		790 緩和的治療			

<症例 7> 62 歳 男性

【現病歴】

2023 年 12 月 18 日 D クリニックでの人間ドック受診時に施行された下部消化管内視鏡検査で、下部直腸に隆起性病変を指摘された。精査・治療目的に自施設紹介受診。

【経過】

2024 年 1 月 23 日 当院消化器外科受診。
2024 年 1 月 31 日 下部消化管内視鏡施行。
下部直腸に 15mm 径の隆起性病変を認め、生検施行。
2024 年 2 月 8 日 MRI 施行。腫瘍は筋層への進展が認められた。周囲リンパ節に腫大なし。
2024 年 2 月 13 日 CT 施行。周囲リンパ節に腫大なし。遠隔転移を疑う所見はない。
生検結果は「Neuroendocrine Tumor」。
S 状結腸の NET 診断で、低位前方切除術が計画され、本人、家族に説明。
2024 年 2 月 29 日 治療目的に入院。
2024 年 3 月 1 日 低位前方切除術施行。
2024 年 3 月 12 日 経過良好で退院。

《手術 病理報告》 Neuroendocrine Tumor (NET G2)

15×11mm の白色腫瘍を認めた。腫瘍細胞は索状に増殖し、固有筋層に及んでいる。明らかな壊死性変化は認めなかった。

免疫染色:クロモグラニン A 陽性、Ki-67 指数 5%であった。

郭清したリンパ節に転移は認めなかった。

症例番号

110 重複番号		710 鏡視下治療		510 UICC cT	
140 性別		711 鏡視下治療 施行日		520 UICC cN	
300 原発部位 《局在コード》		715 鏡視下治療 (開始前・他施設)		530 UICC cM	
309 原発部位 《テキスト》		716 鏡視下治療 (開始後・他施設)		540 UICC c付加因子	
310 側性		720 内視鏡的治療		500 UICC cステージ	
320 病理診断 《形態コード》		721 内視鏡的治療 施行日			
329 病理診断 《テキスト》		725 内視鏡的治療 (開始前・他施設)		610 UICC pT	
330 診断根拠		726 内視鏡的治療 (開始後・他施設)		620 UICC pN	
350 当該腫瘍初診日		730 観血的治療範囲		630 UICC pM	
360 他施設診断日		740 放射線療法		640 UICC p付加因子	
370 自施設診断日		741 放射線療法 施行日		600 UICC pステージ	
380 診断日		745 放射線療法 (開始前・他施設)			
400 診断施設		746 放射線療法 (開始後・他施設)		550 規約肝cステージ	
410 治療施設		750 化学療法			
420 症例区分		751 化学療法 施行日		580 c進展度	
450 来院経路		755 化学療法 (開始前・他施設)		680 p進展度	
460 発見経緯		756 化学療法 (開始後・他施設)			
470 病名告知の有無		760 内分泌療法			
700 外科的治療		761 内分泌療法 施行日			
701 外科的治療 施行日		765 内分泌療法 (開始前・他施設)			
705 外科的治療 (開始前・他施設)		766 内分泌療法 (開始後・他施設)			
706 外科的治療 (開始後・他施設)		770 その他の治療			
		775 その他の治療 (開始前・他施設)			
		776 その他の治療 (開始後・他施設)			
		780 経過観察選択			
		790 緩和的治療			

<症例 8> 62 歳 女性

【現病歴】

腹痛を主訴に、2023 年 12 月 20 日 E 病院受診。12 月 22 日上部消化管内視鏡検査で胃体下部大彎に潰瘍を伴う 5cm 径の腫瘤を認め、生検施行。病理での免疫染色で c-kit 陽性で GIST と診断。

精査・加療目的に自施設紹介受診。

【経過】

2024 年 1 月 12 日 自施設紹介受診。

2024 年 1 月 18 日 腹部 MRI 施行。胃体下部大彎に 5cm × 4cm 径の腫瘤が認められる。
周囲リンパ節に転移を疑う腫大は認めない。他臓器への転移所見なし。
前医での検査結果も含め、GIST と診断。手術を行う旨、本人と家族に説明。

2024 年 2 月 20 日 治療目的に入院。

2024 年 2 月 21 日 幽門側胃切除術施行。

2024 年 3 月 2 日 経過良好で退院。

《病理報告》 Gastrointestinal stromal tumor

腫瘍径 5 × 4cm。核異型を伴う紡錘

形腫瘍細胞が柵状配列をしながら、粘膜下層から筋層にかけ増殖しており、CD34 と c-kit は陽性であったことから、GIST と診断。Mitosis は 10~12/50hpf であった。

症例番号

110 重複番号		710 鏡視下治療		510 UICC cT	
140 性別		711 鏡視下治療 施行日		520 UICC cN	
300 原発部位 《局在コード》		715 鏡視下治療 (開始前・他施設)		530 UICC cM	
309 原発部位 《テキスト》		716 鏡視下治療 (開始後・他施設)		540 UICC c付加因子	
310 側性		720 内視鏡的治療		500 UICC cステージ	
320 病理診断 《形態コード》		721 内視鏡的治療 施行日			
329 病理診断 《テキスト》		725 内視鏡的治療 (開始前・他施設)		610 UICC pT	
330 診断根拠		726 内視鏡的治療 (開始後・他施設)		620 UICC pN	
350 当該腫瘍初診日		730 観血的治療範囲		630 UICC pM	
360 他施設診断日		740 放射線療法		640 UICC p付加因子	
370 自施設診断日		741 放射線療法 施行日		600 UICC pステージ	
380 診断日		745 放射線療法 (開始前・他施設)			
400 診断施設		746 放射線療法 (開始後・他施設)		550 規約肝cステージ	
410 治療施設		750 化学療法			
420 症例区分		751 化学療法 施行日		580 c進展度	
450 来院経路		755 化学療法 (開始前・他施設)		680 p進展度	
460 発見経緯		756 化学療法 (開始後・他施設)			
470 病名告知の有無		760 内分泌療法			
700 外科的治療		761 内分泌療法 施行日			
701 外科的治療 施行日		765 内分泌療法 (開始前・他施設)			
705 外科的治療 (開始前・他施設)		766 内分泌療法 (開始後・他施設)			
706 外科的治療 (開始後・他施設)		770 その他の治療			
		775 その他の治療 (開始前・他施設)			
		776 その他の治療 (開始後・他施設)			
		780 経過観察選択			
		790 緩和的治療			